

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 徳島県 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | |
|-----|------------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 阿南市立 新野中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 1 | 2 | 2 | 0 | 5 | 13 |
| 生徒数 | 38 | 41 | 44 | 0 | 123 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|--|
| <p>基礎基本の確実な定着をめざした指導方法 - 数学・英語の習熟度別学習を中心にして -</p> |
|--|

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

| |
|---|
| <p>全学年 数学・英語（生徒の理解度に差が出やすい教科であるため）</p> |
|---|

(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成14年度 | <p>テーマ 基礎基本の確実な定着をめざした指導方法 - 数学・英語の習熟度別学習を中心にして -</p> <p>研究の見通し（仮説） フロントアタイムの設定により、基礎基本をくり返し学習することにより、学習意欲も高まるであろう。 習熟度別学習を取り入れることにより、個に応じた指導ができ、基礎基本が確実に定着するであろう。</p> <p>研究の内容・方法 < フロントアタイムについて > ・月曜日4校時に位置づけ（国語・数学 英語・国語 数学・英語 国語・数学、1時間に2教科） ・国語、数学、英語の基礎基本の復習 ・問題作成は各教科担任で行い、既成のワーク、プリント類は使用しない。 ・問題内容 { 国語～漢字の読み、漢字の書き取り 数学～計算問題 英語～単語または熟語（英語 日本語） ・評価、採点～生徒の自己評価（その時間内に採点） （到達目標点60点、到達できていない生徒は翌日に再テスト）</p> <p>< TT指導より習熟度別学習へ > ・1学期・・・TTを中心に</p> <p>1年生 学級40名 { 集団A 20人 }（等質のグループ） { 集団B 20人 }（等質のグループ） 数学、英語の2教科を上記の形態で指導。集団Aが英語の授業、 集団Bが数学の授業として時間割を編成。 2年生は22名の2クラス、3年生は27名と28名の2クラスでクラスごとの授業。（この2教科は全学年TTの授業を実施。）</p> <p>・2学期・・・習熟度別指導を取り入れて * 授業形態 1年生（数学・英語）</p> |
|--------|--|

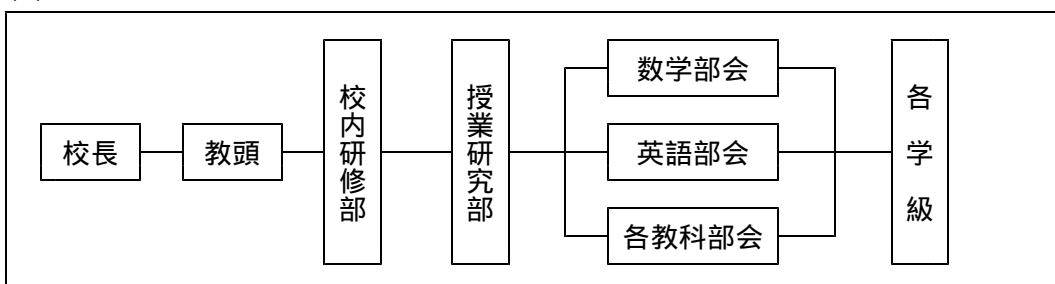
| | |
|--|--|
| | <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD A[学級 40名] --- B[集団 A30人程度] A --- C[集団 B10人程度] </pre> </div> <p>2年生（数学・英語）</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD D[学級 44名 (学級解体)] --- E[集団 A30人程度] D --- F[集団 B14人程度] </pre> </div> <p>3年生・・・TT指導</p> <p>*経過 習熟度別指導の主旨説明（8月上旬に各学年保護者会で） 職員間で共通理解（指導方法，指導体制，教材，配慮事項） 生徒に説明，希望調査，相談（9月2日～7日まで）</p> <p>*学習内容，方法 数学：同一教材を使用するが，より理解力を深めるために補助教材の利用（教師作成のプリントが中心） 少人数集団は TT の形態をとり，習熟の程度に応じて，質問に答えたり，個別指導にあたる。 英語：1年生はゆっくりとしたペースで少人数集団を TT で指導。教材は同一教材を使用し，復習を多くする。2年生は1年生の復習からスタートし，教材は教師作成のプリントを使用。</p> |
|--|--|

| | |
|----------------|--|
| 平成 15 年度 | <p>テーマ 基礎基本の確実な定着をめざした指導のあり方 - 数学・英語の習熟度別学習を中心にして -</p> <p>研究の見通し（仮説） 毎朝の基礎学力タイム（英語，数学，国語の復習プリント）と朝の読書を積み重ねていくことによって，基礎基本の定着が十分になるであろう。 フロントアタイムのプリントを習熟の程度に応じたものにして作成し，生徒個々の学習の到達度に応じて問題を選択し，取り組ませることで，個に応じた指導ができ，基礎基本が確実に定着するであろう。 習熟度別指導を取り入れることにより，個に応じた指導ができ，基礎基本が確実に定着するであろう。</p> <p>研究の内容・方法 <フロントアタイムについて> ・基礎基本コースと標準，発展コースの2種類のプリントを用意し，生徒に自分の理解度に応じて選択し，取り組ませる。 <習熟度別指導について> ・基礎基本コース，標準コース，発展コースの3コース選択を用意し，生徒の達成度に応じて，選択し取り組ませる。 ・単元内の評価を実施し，生徒の実態を知るとともに，次の指導に活かし，習熟を図っていきたい。</p> |
|----------------|--|

| | |
|----------------|---|
| 平成 16 年度 | <p>テーマ 基礎基本の確実な定着をめざした指導のあり方 - 数学・英語の習熟度別学習を中心にして -</p> <p>研究の見通し（仮説） 毎朝の基礎学力タイム（英語，数学，国語の復習プリント）と朝の読書を積み重ねていくことによって，基礎基本の定着が十分になるであろう。 フロントアタイムのプリントを習熟の程度に応じたものにして作成し，生徒個々の学習の到達度に応じて問題を選択し，取り組ませることで，個に応じた指導ができ，基礎基本が確実に定着するであろう。 習熟度別指導を取り入れることにより，個に応じた指導ができ，基礎基本が確実に定着するであろう。</p> |
|----------------|---|

- 研究の内容・方法
- <フロンティアタイムについて>
 - ・平成15年度と同様の取り組みをするが、生徒が意欲的に取り組むための方法を模索したい。
 - <習熟度別指導について>
 - ・平成15年度と同様の取り組みをする。
 - ・家庭、各小学校との連携を効果的にする方法を実践したい。
 - ・単元内の評価を実施し、生徒の実態を知るとともに、次の指導に活かし、習熟を図っていききたい。
 - ・授業の中で子どもたちが意欲的に取り組めるような教材の研究と個々の子どもたちの評価をどのようにして指導に活かしていくか模索したい。
 - ・授業を通して、よりよい学習集団、学級集団のあり方について子どもの視点から検証していききたい。
 - ・学習の定着状況を数値化する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 生徒のアンケートより

基礎学力タイムについて

全体として44%が肯定的である。主な意見として「復習ができる」が圧倒的に多く、基礎学力タイムの目的が果たせていると考えられる。また、「力になっていると思うから」「基礎学力が少しずつ身につけているから」「勉強を進んでできるようになった」などの意見もあり、「プリントを綴じるファイルをつくるとよい」などの建設的な意見もある。

一方、学年があがるにつれて、否定的な考えの割合が高くなっているのが現実である。このことは学習意欲は小・中・高とあがるにつれて格差が拡大すると一般的にいわれていることにつながっているものなのか、それとも基礎学力の定着度と関係があるのか、あるいは学年色と関係があるのか検討する必要がある。また、このことは授業のやり方にも深く関係してくると予想され、今後の学習指導への大きな課題となる。

問題点としては、「普通」と答えた割合が高いことである。繰り返し学習の指導を更に充実する必要性を感じる。

読書タイムについて

「普段あまり本を読まないのに、この機会に読むことができるから」に代表されるような肯定的意見が全体的に多く、読書タイムについては一応の成果をあげていると解釈できる。しかし、読書意欲が向上しているかどうかについては、読書に関するアンケートを今後も実施していく必要があると考える。また、今後も短い時間ではあるが、全校一斉に読書に集中することにより、読む力を生徒全員につけさせていきたい。

習熟度別学習について

習熟度別学習を取り入れている教科(数学、英語)の授業について、「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた生徒の割合は全体の55%で、「普通」と答えた割合33%を加えると88%となっており、生徒からは一応の評価を得ていると考えられる。しかし、「楽しくない」「少し楽しくない」と答えた生徒(12%)への対策も今後の重要な課題としたい。

習熟度別学習で行っている学習方法については、「とてもよい」「よい」が49%で、約5割の生徒が肯定的に捉えていると考えられる。しかし、「あまりよくない」「よくない」という否定的な生徒(12%)や「普通」という流動的な意見の生徒(39%)の存在から、今後も学習方法の研究に積極的に

取り組んでいかなければならないと考える。

肯定的な主な意見・・・*自分にあったペースで勉強できるから

*わかる人はどんどん先に進めて難しい応用問題などもできるし、わからない人もしっかり基礎ができるから

*人数が少なく、気軽にわからないところをきけるから

学習内容の理解度については、教科の特異性もあるが、65%が高い理解度を示しており、否定的に答えた15%の存在もあるが、習熟度別学習の一応の成果と今後の方向性を表しているのではないかと考える。

(2) 教師の立場から

一人一人の指導により多くの時間がかけられるようになった。

生徒の質問を聞く機会が多くなったので、つまずきに気づくことができ、ゆっくりじっくりと指導できるようになった。

教材研究など研究意識がたかまり、個に応じた指導方法の在り方などもっと研修をする必要性を感じる。

2. 今後の課題

(1) 基礎学力の定着度を具体的にはかるモノサシは何か、の研究がすすんでいない現状である。基礎学力タイムとフロンティアタイムで繰り返し復習しているが、定期テストの結果となると十分でない。

(2) 習熟度別学習が「楽しくない」と答えている生徒が、学年が進むと多くなるのは、どこに原因があるのかの検討をする必要がある。ひとつの理由は、生徒の学習意欲の問題で、やる気が見られないことである。これは教師サイドの問題でもあり、習熟度別学習の目的が生徒に十分理解されていないことも一因と考えられ、今後の啓発・指導に一層の努力が求められる。

また、意欲を引き出す手だての研究が十分でないなどがあげられ、意欲的に学習に取り組むための指導方法の研究を進めていきたい。

(3) 評価の問題について、絶対評価であるので、習熟度の低い集団の生徒が2ないし1の成績となるので、学習意欲の低下の原因になる恐れがある。このような事態への対応として、がんばり度など個人内評価を文章表現するなどの研究を進めていきたい。

(4) 学力の定着は学校と家庭が車の両輪のように動く必要がある。しかし、生徒のアンケートをみると、残念ながら家庭学習をほとんどしない生徒が1・2年生は32%であり、受験を控えた3年生でも19%いる。教師の指導や機会ごとの保護者への啓発も未だ効果をあげていない。自主的な家庭学習の積み重ねが学力定着を大きく前進させると考えられる。次年度に向けて強力な指導や啓発の必要性を感じる。

(5) 小・中学校間の連携強化について考えていきたい。学習指導や生徒指導において、小・中が一貫性と継続性を求め連携が図られてきたが、更に強い連携を図る必要がある。学習面においては学習状況の把握を図るための調査(診断テスト)が必要である。個々の子どもたちの読み・書き・計算の目標達成状況を把握することは確かな基礎学力の定着度を図ることに通じ、中学校での個に応じるための資料として是非必要と考える。

また、深く学力とかがかわる基本的生活習慣が身についていることも大事な要素である。そのため、生徒指導面において、あいさつ、時間を守る、人の話を聞くなど重点的に目標をしぼり込んだ共通理解をし、継続的な指導と共に情報交換などの場を設定する必要性を感じる。

今年度においては、校区ブロック人権教育研修会で保・幼・小・中の教職員がKJ法を用いて「町内の子どもたちの課題は何か」について協議する場が設定され、参加者の共通の思いや課題が確認されるなど、連携強化に向けての大きな力となっている。また、町学校保健委員会においても、町内の子どもたちの健康や生活習慣の向上をめざした連携が図られている。

(6) 少人数指導、習熟度別指導には、教員数が教員定数より数名の加配教員の配置が絶対必要である。本校には3名の加配教員が配置されているが、今後の継続的な配置が習熟度別学習を進めるにあたっての重要な課題である。

学力把握のための学校としての取組

- ・標準学力調査（年間1回）5月実施
- ・定期考査（中間考査・期末考査）
- ・フロンティアテスト
- ・単元終了時の小テストなど

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 6 / 9（月） 数学授業研究会 講師：鳴門教育大学 服部勝憲助教授
- ・ 9 / 25（木） 英語授業研究会 講師：県学校教育課 違谷指導主事
学校教育指導員 那住阿南中教諭
- ・ 10 / 8（水） 数学研修会 講師：鳴門教育大学 服部勝憲助教授
県学校教育課 三好指導主事
- ・ 10 / 24（金） フロンティアスクール研究発表会・公開授業（数学・英語）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無